

平成31年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	480	未来に引き継ぐ、環境にやさしいまちをつくる
施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する
施策の目標	ごみの減量やリサイクルについて、区民・事業者の意識と理解が深まり、ごみの発生抑制を基本とした生活習慣が定着しています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「区民1人1日あたりのごみ排出量」の削減									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	565 g	550 g	537 g	525 g	520 g 以下					515 g 以下
実績	564 g	561 g	548 g							

指標名	「資源化率」の向上									
	基準年(H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	20.5%	21.3%	22.0%	22.6%	23% 以上					25% 以上
実績	19.6%	18.9%	19.1%							

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
墨田区一般廃棄物処理基本計画(平成23年度～令和2年度)における最終目標は、区民1人1日あたりのごみ排出量を520g以下、年間総排出量を91,000t以下、資源化率を23%以上としている。 計画前半期の見直しを終え、区内人口が増加しているものの、ごみ量の削減は順調に推移しているが、資源化率は停滞状況にある。このため、最終目標値の達成には、これまで以上に目標値を意識した取組を進めていく必要がある。 ごみの減量・資源化率の向上には、行政主体の施策事業の取組を進めるだけでなく、区民・事業者との協働が不可欠であることから、各種事業の更なる強化及び推進が不可欠である。	H28	1,304,245
	H29	1,321,746
	H30	1,346,902

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	一般廃棄物処理基本計画に掲げる指標において、前年度比では全ての数値で向上したものの、年度別目標数値は達成されなかった。平成30年度は、普及・啓発事業の強化を図り、数値向上の成果が表れたものの、リサイクル清掃事業は、区民の生活基盤を支える事業であるため、今後においても継続して効果的かつ効率的に更なるごみの減量とリサイクルを進めなければならないことから、当該評価とした。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。

【上記の判断理由】

引き続き、資源循環型社会の実現を第一義に事業を展開していく。現行の事業フレームは継承していくが、人口規模に応じた処理コストを積算基調とした予算を踏まえ、適正に事業執行していく。

【今後の具体的な方針】

- 集積所に排出される小型家電及び乾電池のピックアップ回収、前年度に試行実施を行った不用自転車の海外供与(自転車リユース事業)を本格実施し、更なるごみの減量事業に取組む。
- 啓発指導用DVDを製作し、区民・事業者への適正分別排出協力の強化を図る。
- 一般廃棄物処理基本計画改定に合わせ、施策事業を含めた今後のリサイクル清掃事業のあり方をまとめる。

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	収集事業費(車両雇上費)	602,901	628,013	1,230,914	ごみの処理は、快適な住民生活を支える基盤であり、その過程においてごみを減量し、リサイクルを推進していくことは循環型社会の実現へとつながる。	-	改善・見直し
						-	平成28年度
2	資源回収事業費	502,895	13,781	516,676	ごみとして廃棄されていたものを資源として回収し、リサイクルルートに乗せることによって、廃棄物を減量し、循環型社会を実現する。	22	改善・見直し
						19.5	平成28年度
3	リサイクルの普及・啓発経費	20,050	109,262	129,312	ごみ減量・分別の普及啓発に資する。	51855	改善・見直し(効果測定)
						54009	平成28年度
4	集団回収支援経費	35,809	8,859	44,668	回収団体により回収した資源物をリサイクルルートに乗せることにより、廃棄物の減量及び資源のリサイクル化が進む。	6302	改善・見直し
						5187	平成28年度
5	拠点回収実施経費	3,479	3,937	7,416	ごみとして廃棄されていたものを資源として回収し、リサイクルルートに乗せることによって、廃棄物を減量し、循環型社会を実現する。	38.8	改善・見直し
						39.3	平成28年度
6	粗大ごみ収集事業費	174,949	70,873	245,822	一般廃棄物の適正処理。	430	改善・見直し
						515	平成28年度
7	事業系リサイクル推進事業費	62	1,969	2,031	墨田区から排出される廃棄物については、家庭系のみでなく事業系廃棄物も多くを占めている。そのため、本事業を通じて事業者のごみに対する意識向上、事業系ごみの削減及び循環型社会の実現へと繋げている。	22	改善・見直し
						18.9(H29)	平成28年度
8	すみだリサイクル清掃地域推進委員制度運営費	81	2,953	3,034	一般廃棄物処理基本計画の目標達成のため、地域におけるごみ減量や資源化率の向上をはじめ、持ち去り対策、不法投棄防止対策の推進力として活躍が期待される。	160	改善・見直し(効果測定)
						92	平成28年度
9	エコストア制度推進費	26	984	1,010	3R(ごみの減量や再利用、再資源化)を心がけた店舗を増やし、利用する区民が日ごろから3Rを心がけ、廃棄物を減量し、循環型社会を実現する。	51855	改善・見直し
						54009	平成28年度
10	資源持ち去り及び不法投棄防止対策経費	3,780	88,591	92,371	資源として排出された資源物の回収量を確保しリサイクルルートに乗せることは、区民の信頼を確保することになり、ひいては循環型社会を実現する。	2200	改善・見直し(効果測定)
						1807	平成28年度
11	クリーンキャンペーン実施経費	1,460	1,969	3,429	区内美化活動を実施することで、廃棄物に対する意識改革を行うとともに、不法投棄減少と適正排出の意識の定着を図り、廃棄物減量・循環型社会の実現へとつながる。	13500	改善・見直し
						9410	平成28年度
12	廃棄物減量等推進審議会運営費	284	2,953	3,237	区民、学識経験者、区内事業者、区議会議員、区職員で構成された会議体から出された意見や助言を、ごみ減量のための計画や施策に反映させ、一般廃棄物処理基本計画の目標を達成させる。	2	現状維持
						1	平成28年度
13	許可・指導事務費	10	6,890	6,900	立入検査等の指導を強化することによって、法令等の違反を犯す業者が減少する。	-	改善・見直し
						-	平成28年度
14	自動販売機届出受付事務費	2	984	986	空き缶等の散乱防止と資源リサイクルの促進が図られる。	-	改善・見直し(効果測定)
						-	平成28年度
15	リサイクル活動センター管理運営費	1,114	2,953	4,067	家庭で不要になったものを、捨てず必要とする方へ提供する場をつくることで、3Rに対する意識の向上を図り、循環型社会への実現へと繋げている。	21000	廃止
						19934	平成29年度

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標					単 位	
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
				目 標				
				実 績				
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標						
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>現業職員の退職者不補充の考えに基づき、車付雇上を導入することとしているが、全体業務の見直しを伴うため、「退職者数 = 雇上移行」ではないため、事務の性質上、数値指標を設定しない。</p>							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
			目 標					
			実 績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目 標							
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>数値設定なし = 上記「手段に対する指標」と同様の考えによる。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 直営の人材・機材を補完する必要性に応じて、雇上(車付雇上を含む)を導入していく余地がある。</p> <p>【今後の方向性等】 今後とも、一般廃棄物の処理が快適な住民生活を支える基盤となる事業であることに変わりない。その中で、直営の人材・機材を補完する必要性に応じて、雇上(車付雇上を含む)を導入していく。</p>

課題・問題点
<p>「車付雇上」は、退職者不補充の考え方で導入しており、職員の退職者数等に応じて、雇上業務に移行することから、その傾向は一定化していない。</p>

施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する	部内優先順位
事業名	資源回収事業費		2
目的	ごみとして廃棄されていたものを資源として回収し、リサイクルルートに乗せることによって、廃棄物を減量し、循環型社会を実現する。		主管課・係（担当）
			すみだ清掃事務所・作業係 3613 2228
対象者	区内の資源物排出を行う区民、区収で資源物排出を行う事業所		
根拠法令 関連計画	廃棄物の処理及び清掃に関する法律・容器包装リサイクル法・循環型社会形成推進基本法		
実施基準	法令基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤5人、委託先：R団連すみだ外
事業内容	平成12年4月、都から区へ清掃事業が移管され、区が集積所による古紙収集を実施。平成18年10月、集積所における資源回収品目を拡充し、びん・缶、ペットボトルの回収を実施。平成19年7月、モデル地域での食品トレー回収実施。平成20年10月より区内全域で実施。		
経過	開始年度		終了予定
	平成28年度に実施した組成調査の結果では、ごみとして排出されている「資源物」が約20%混入されており、特に、雑がみ、古着等の資源となる品目について、資源回収への排出を啓発していく必要がある。 資源物を区民側が管理する必要もなく、定期的に排出できる点において区民生活の利便に大きく資するものであり、更なる資源化率の向上にも結びつくものでもあるため、今後も改善・効率化を図り、行政サービス自体は現状レベルで継続する必要がある。		
議会質問 の状況			
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 通年で実施している。		

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）		499,326	481,800	488,149	503,836	507,192	510,035
決算額（令和元年度は見込み）		490,896	477,463	482,958	495,309	502,895	510,035
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		490,896	477,463	482,958	495,309	502,895	510,035
執行率（％）		98.3%	99.1%	98.9%	98.3%	99.2%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
賃金	受付・展示品補修業務	1,887	賃金	受付・展示品補修業務	1,792	賃金	受付・展示品補修業務	2,326
需用費	消耗品等	13,171	需用費	消耗品等	7,059	需用費	消耗品等	7,017
役務費	資源回収等	366,754	役務費	資源回収等	371,015	役務費	資源回収等	378,004
委託料	資源化業務等	113,312	委託料	資源化業務等	122,813	委託料	資源化業務等	122,466
使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	176	使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	210	使用料及び賃借料	資源物回収用車両リース	210

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	資源物行政回収量				単 位	トン
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		7625	R2	目 標	7425	7457	7507	7556
				実 績	7312	7324	7291	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	7625						
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目標値は、墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しによる資源物行政回収量・見直し予測値を設定。実績は、集団回収以外の全資源物を対象とした回収量を設定。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	資源化率				単 位	パーセント
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
23.3		R2	目 標	20.5	21.3	22	22.6	
			実 績	20.5	18.9	19.1		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	23.3							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標値は、墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しによる資源化率・見直し予測値を設定。実績は、総排出量(持込ごみを除く) / 全資源回収量で算定。 H30年度のごみ量や資源回収量の数値が未確定のため、速報値で算出。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 委託車両単価等を見直す余地がある。</p> <p>【今後の方向性等】 ごみとして出されている資源物を資源回収へ排出いただけるよう普及啓発を強化する。</p> <p>区民団体等が民間ベースで展開する集団回収の利用状況も踏まえつつ、より合理的かつ効果的な資源回収システムの構築を検討し続ける必要がある。また、回収品目についても、品目ごとの回収状況や、社会経済状況で求められる新たな品目の導入も踏まえつつ事業の継続を行う必要がある。</p>

課題・問題点
資源回収システムの安定化及び目標資源化率達成に向けての施策

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	大規模イベントへの出展に係るブース等への来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		4,100	R7	目 標	2,500	2,600	2,700	3,500
				実 績	2,644	2,845	3,508	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	3,600	3,700	3,800	3,900	4,000	4,100	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	直接コミュニケーションをとりながら、必要な情報を届けることが可能であるため。 最終目標値3,400をH30に達成したことから、4,100に見直した。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	区収集ごみ量				単 位	t
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
50,529		R2	目 標	53,856	52,791	51,855	51,174	
			実 績	54,241	54,557	54,009		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	50,529							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業成果の目的は、廃棄物の減量であることから、その割合を示す数値として設定したものである。なお、目標数値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」に基づく数値である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 ごみ減量と資源化率の向上のために普及啓発は必要不可欠である。ただし、普及啓発のあり方については、地域や世代、対象者ごとに必要な情報を届けることが求められるため、メニューやツールのバリエーションについて、検討の余地あり。</p> <p>【今後の方向性等】 ごみ減量・リサイクル推進に効果が高い「生ごみの水切り励行」及び「雑がみの資源化」等を重点的にPRしていく。今後、資源物・ごみ分別案内については、保存版冊子及びチャットボットにより一層の普及啓発を行う。 なお、「スカイツリー周辺清掃事業」は、オリンピック・パラリンピックを控え、快適なまちなみ景観づくりに寄与していく。</p>

課題・問題点
<p>平成30年7月にリリース、12月にSNS上で反響を得たチャットボットについては、利用実績は順調に推移しており、粗大ごみのネット申し込み数、申込率が過去最高を更新する等、着実に効果を顕してきている。今後こうした普及啓発事業の重要性はより一層高まるため、各種の啓発ツール(パンフレット、チラシ、チャットボット等)は利用者を飽きさせないために定期的なメンテナンス、リニューアルが求められるが、これらをいかに低い負担(職員の業務負担やコスト)で行うかが課題である。</p>

施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する			部内優先順位
事業名	集団回収支援経費				4
目的	町会・自治会等が市場価値をもつ資源を自主的に回収し、資源回収業者に引き渡す活動を支援することで、ごみの減量および資源の有効活用の促進を図る				主管課・係（担当）
					すみだ清掃事務所・作業係 3613 2228
対象者	集団回収実施団体、集団回収業者				
根拠法令 関連計画	墨田区廃棄物の減量及び処理に関する条例、墨田区資源回収システム推進要綱、墨田区分別収集計画				
実施基準	区独自基準	実施方法	直営	人員体制・委託先	常勤2
事業内容	家庭から出る古紙、びん、缶などを資源物としていかすため、区に登録した団体（10世帯以上からなる団体）が自主的に収集し、資源回収業者に引き渡す。団体には1kg当たり6円の報奨金の支払及び作業に必要な用具を提供する。				
経過	開始年度	平成4年度	終了予定		
	集積所での資源回収量は増加しているのに対し、集団回収量は新聞紙の回収量減少の影響もあり減少傾向にあり、その結果、「資源回収事業」全体でも伸び悩んでいる状況である。				
議会質問 の状況	特になし				
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 報償費の支給・・・9月、3月 集団回収団体への支援物品の配布・・・12月				

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）		48,841	42,051	45,618	43,638	37,327	41,521
決算額（令和元年度は見込み）		44,184	40,793	39,351	37,154	35,809	41,521
財源	国	0	0	0	0	0	0
	都	0	0	0	0	1,234	1,787
	その他	0	0	0	0	0	0
一般財源		44,184	40,793	39,351	37,154	34,575	39,734
執行率（％）		90.5%	97.0%	86.3%	85.1%	95.9%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	集団回収支援経費	33,957	報償費	集団回収支援経費	31,829	報償費	集団回収支援経費	36,000
需用費	支援物品経費	2,502	需用費	支援物品経費	2,883	需用費	支援物品経費	3,803
役務費	郵便料金	218	役務費	郵便料金	188	役務費	郵便料金	249
委託料	集団回収システム保守	259	委託料	集団回収システム保守	259	委託料	集団回収システム保守	262
使用料及び賃借料	集団回収システムの再備上	218	使用料及び賃借料	集団回収システムの再備上	208	使用料及び賃借料	集団回収システムの再備上	207

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	集団回収実施団体数				単位	団体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		420	R2	目標		390	400	410
				実績		386	400	407
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	420						
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>集団回収における資源回収量増加を図るためには、登録団体数の増加が必要である。区民へ制度の周知徹底を図り集団回収実施団体数を増加させる。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	資源回収量				単位	トン
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
6401		R2	目標		6259	6302	6343	
			実績		5899	5325	5187	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	6401							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>集団回収実施団体数の増加を図り、将来的に資源の回収量の増加を図る。目標値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直しの集団回収見直し予測値による。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 行政としては、回収団体に対し側面的支援(回収量に応じた報奨金支給、回収用具等の支給)を実施。資源回収に要する委託費は発生していない。</p>

課題・問題点
<p>経済性に優れた回収方法であり、かつ地域コミュニティの育成の見地からも、有効な事業であるが、町会・自治会役員の高齢化による負担増を考慮する必要がある、インセンティブ向上も含めて対応策を検討していく。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	拠点数				単 位	箇所
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		240	R7	目 標	218	220	224	226
				実 績	218	218	215	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	228	230	232	234	237	240	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	回収拠点数を増やして、区民が排出しやすい環境を作る。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	回収量				単 位	トン
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
42		R7	目 標	38	38.4	38.8	39.2	
			実 績	38	39.9	39.3		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	39.6	40	40.4	40.8	41.4	42		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
回収量が増加すれば、リサイクル率が向上し循環型社会の構築に資するとともに、ごみの減量化にもつながる。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	【評価説明】 拠点回収は、集団回収、集積所回収(特定資源物回収)のメリット・デメリットを相互補完する機能を有することから、引き続き実施していく。

課題・問題点
区民がより利用しやすい拠点設置を働きかける等、改善の余地がある。また拠点回収品目の一つであるフードドライブについては、これまでの取組に加えて、支援を必要とする子ども食堂の運営団体等に対し、直接回収品目の情報提供を定期的に行う等の対応を充実させていく。

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	収集申告件数				単 位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		104991	R2	目 標		-	97070	100953
				実 績	85345	93337	97100	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	104991						
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」における、粗大ごみ排出量予測においても増加予測にあることから、申告件数を活動指標とした。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	運び出しサービス収集件数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
450		R2	目 標		420	430	440	
			実 績	309	414	515		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	450							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
高齢社会の進展に伴い、後期高齢者の割合が増加することから、高齢者のみでは排出困難な粗大ごみの運び出しサービスのニーズが高まることも予測される。このため、直営実施の運び出し事業を成果の指標として設定した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 法律に則る一般廃棄物処理。</p> <p>【今後の方向性等】 平成29年度から、直営職員による運び出しサービス事業を再開したところであるが、今後も増加する人口及び進展する高齢社会に合わせ、引き続き、より一層区民ニーズに対応したサービスを提供するとともに、リサイクルを進めていく。</p>

課題・問題点
<p>転入超過による区民人口増加傾向が継続する中、粗大ごみ申込件数も増加する一方で、減少の兆しが無い。平成30年度の粗大ごみ量は対前年度比で20%も増加しており、令和元年度は増車対応に努めているが、ごみ量増に対応しきれず、収集期間の短縮には至っていない。粗大ごみの資源化などを含め、抜本的な対策が必要な状況である。</p>

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	立入調査件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		135	R7	目標	135	135	135	135
				実績	97	96	94	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	135	135	135	135	135	135	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	立入調査件数を活動指標とすることにより、大幅な事業系廃棄物の削減へと繋げていける。目標値については、立入調査実施時期を3～4年としているため、現在の対象建築物数を案分した数字とする。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	資源化率(家庭ごみ分を含む)				単位	%
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
23%以上		R2	目標	20.5	21.3	22	22.6	
			実績	19.8(H27)	19.6(H28)	18.9(H29)		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	23.3							
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
本事業の趣旨が、事業系廃棄物の削減を目標としているものであるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 立入検査の実施方法や大規模な事業者向け講習会の実施などを検討していくことで、事業系廃棄物の削減効果の向上が見込める。</p> <p>【今後の方向性等】 引き続き、事業者に対する排出ルールの徹底を図り、より一層の普及啓発を行っていく。</p>

課題・問題点
<p>立ち入り調査の対象となるような比較的規模の大きい事業所のごみの排出、リサイクルは概ね良好な状況であるが、集積所排出を認めている小規模事業所のごみの排出や有料ごみ処理券の貼付確認については今後拡充していく必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	委嘱者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		160	R7	目 標	160	160	160	160
				実 績	147	122	123	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	160	160	160	160	160	160	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区の実施するリサイクル・清掃事業を地域住民の協力のもとに推進していくためには、より多くの地域のリサイクル清掃のリーダーの育成が必須である。また、要綱では、推進委員の委嘱期間を経過した者に対し、離任後の活動協力を要請していることから、委嘱者数が増えることが望ましいため。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	年末不法投棄防止パトロール参加団体数				単 位	団体
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
160		H37	目 標	160	160	160	160	
			実 績	37	77	92		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	160	160	160	160	160	160		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
区が依頼する年末不法投棄防止パトロールに積極的に参加があることによって、不法投棄されない地域づくりの醸成が望まれるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 本事業の推進によってごみの減量や不法投棄の減少が実現できれば、清掃事業全体の経費削減や効率化が期待できる。</p> <p>【今後の方向性等】 地域のリーダーとして、実践活動や区民のライフスタイルに取り込まれるよう、より一層推進していく。</p>

課題・問題点
<p>町会・自治会員の高齢化に伴い、若い世代・新規の委員選出が難しい現状にある。これは既存の町会・自治会システムが疲弊していることを端的に示しており、委員の選出方法についても将来的には代替的手法（「緩やかに繋がる地域」の代表を想定、SNSを活用したネット自治会から選出するようなイメージ）を検討する余地がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	エコストア認定数				単 位	店 舗
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		130	R7	目 標	100	100	110	110
				実 績	94	97	92	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	120	120	120	130	130	130	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	エコストア認定数が、当事業の成果の目安になるため指標とした。目標値は、認定店舗の事業者が高齢などにより閉店するケースが多くなっているが、認定店の条件の見直しを行い飲食店等にも門戸を開き、認定店を増加させる。							
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	区収集ごみ量				単 位	t
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
50,529		H32	目 標	53,856	52,791	51,855	51,174	
			実 績	54,241	54,557	54,009		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	50,529							
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
事業成果の目的は、廃棄物の減量であることから、その割合を示す数値として設定したものである。なお、目標数値は、「墨田区一般廃棄物処理基本計画中間見直し(平成29年6月)」に基づく数値である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 少ないコストによっても、拠点回収事業の回数スポットとして、リサイクル推進に大きく寄与している。</p> <p>【今後の方向性等】 乾電池等の回収拠点、レジ袋等容器削減への取り組み拠点及び食べ切り推奨を推進するための中心的な機能として引き続き展開していく。</p>

課題・問題点
<p>食品ロス対策として、エコストア制度を活用した食べ切り推奨店認定制度を開始した(平成29年度末)。今後認定店舗の充実にあたっては、店舗側にメリットを与えていくことが課題である。この点令和二年度の国の予算要望に当たり、事業者等に対するインセンティブ確保を目的としたポイント付与の仕組みや、これに必要な決済端末等への補助など、例年よりも踏み込んだ形で要望を伝えたところである。</p>

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	注意・警告等の件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		330	R7	目標	752	760	770	390
				実績	752	499	399	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	380	370	360	350	340	330	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	持ち去り行為者に対して口頭注意等を行い、持ち去り行為者を減少させる。 最終目標値600をH30に達成したことから、330に見直した。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	持ち去り行為発見数				単位	回
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
1,500		H37	目標	2,236	2,200	2,200	1,800	
			実績	2,236	2,215	1,807		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	1,700	1,700	1,600	1,600	1,500	1,500		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
持ち去り行為者が減少することによって、持ち去り行為自体を減少させる。 最終目標値1,900をH30に達成したことから、1,500に見直した。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	【評価説明】 パトロール方法の見直しを検討する余地がある。 【今後の方向性等】 刑罰適用には、裁判維持のための万全な証拠保全等を要するため、司法手続き移行は必ずしも最善策ではなく、当面は注意勧告を中心としたパトロール活動を展開していく。

課題・問題点
持ち去りに関する苦情件数は減少しており、当該業務による抑止効果が十分に期待できるところである。引き続き適正な業務執行に邁進するとともに、効率的なパトロール方法については検討する余地がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	参加団体				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		330	R7	目 標	300	310	310	310
				実 績	294	257	248	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	320	320	320	330	330	330	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>本事業の活動主体は、町会・自治会、老人クラブ、一般企業などのため、活動目標には参加団体を選定した。墨田区内の町会・自治会、老人クラブの総数に一般企業数団体を足したものを目標とする。</p>							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	収集ごみ量				単 位	kg
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1	
10,000		R7	目 標	15,000	14,000	13,500	13,000	
			実 績	13,360	10,250	9,410		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	12,500	12,000	11,500	11,000	10,500	10,000		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
<p>区内美化を目的とした事業のため、収集ごみ量を成果目標とし、目標値は区内のポイ捨て・不法投棄が減少していることの明確性から年々減少することが望ましい。</p>								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 地域活動推進課の実施する職員クリーンキャンペーンと類似するが、対象が異なるため。</p> <p>【今後の方向性等】 本事業は、美観向上のみならず、地域力の強化にも高い効果を発揮できる事業であり、引き続き実施していく。</p>

課題・問題点
<p>まちの環境美化やリサイクル意識の定着に直接的につながる事業であり、今後も着実に実施していく必要がある。</p>

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	審議会開催回数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3	R7	目 標		3	3	3
				実 績		3	2	2
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目 標	3	3	3	3	3	3	
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	墨田区一般廃棄物処理基本計画に基づく施策事業の進捗状況を、定期的に確認・報告し、課題等について検討する必要があるため。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	一般廃棄物の減量及び資源化率の向上に資する(審議会からの)提案数				単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
2		R7	目 標		0	2	2	
			実 績		0	1		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目 標	2	2	2	2	2	2		
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
平成28年度において、審議会委員による自主活動(検討ワーキンググループ)を発足し、事業アイデアを考案することとしたことから、その提案数を指標として設定することとした。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	【評価説明】 条例による。 【今後の方向性等】 一般廃棄物処理基本計画見直しに当たり、直面する課題解決に向けて適宜会議を開催し、委員からの適切な見解を得ていく。

課題・問題点
資源化率、ごみ量目標の達成に大きな課題がある中、墨田区一般廃棄物処理基本計画の策定に向けて有意義な議論を行っていく必要がある。

事業の 成 果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	立入検査数				単 位	回
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		55	R7	目 標	40	45	45	45
				実 績	27	32		
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目 標	50	50	50	55	55	55
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	許可業者への立入検査は、業者が法令を適正に遵守しているかの監督と、遵守されていない場合の指導を行うため、目的(違反業者を減少させる)を達成させる効果的な手段である。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標					単 位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
			目 標					
			実 績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目 標							
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
一般廃棄物処理業者が廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の法令を適正に遵守することにより、行政指導・処分業者数は減少するが、目標値を設定することは、事業者動向による多様な事務の性質上困難である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 悪質業者による法令違反等での環境負荷等を勘案すれば、効率性は高い。</p> <p>【今後の方向性等】 事業者は複数区で許可を受けることが多いことから、特別区が連携しながらも、引き続き事業は継続していく必要がある。</p>

課題・問題点
<p>廃棄物処理法に基づく業務であり、法に基づく適切な業務執行を引き続き行う必要がある。</p>

事業の 成 果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	届出件数(自動販売機数)				単位	台
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		100	H37	目標	100	100	100	100
				実績	0	17	125	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	100	100	100	100	100	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	自販機設置管理者への周知徹底の度合いを測ることができる。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標					単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
			目標					
			実績					
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	目標							
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
目標値を設定することは、事業者動向により変動するため困難である。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	<p>【評価説明】 まちの美化促進事業との統合について議論の余地あり。</p> <p>【今後の方向性等】 自動販売機の設置に伴う回収容器が必ず設置されるようになり、再考必要。</p>

課題・問題点
<p>自動販売機の設置については、飲料容器の散乱防止やリサイクル等による有効利用を図ることで、地域の清潔保持と環境保護へ繋げることを目的として、回収容器の設置と自動販売機の設置等について届出を条例等で義務付けしているが、近年、自動販売機に伴う飲料容器の散乱や不法投棄が問題となるケースがほとんどなくなっている実態を鑑みて、当該事業の在り方について検討が必要である。</p>

施策	483	廃棄物を減量し、循環型社会を実現する	部内優先順位
事業名	リサイクル活動センター管理運営費		15
目的	家庭で不要となったものを、捨てずに必要とする方へ提供する場をつくることで、3Rに対する意識の向上を図り、循環型社会への実現へと繋げている。		主管課・係（担当）
			すみだ清掃事務所・啓発指導係 3613 2229
対象者	家庭で不要となったものを販売したい区民、廉価で衣服等を必要とする区民		
根拠法令 関連計画	すみだリサイクル活動センター運営要綱(平成30年12月1日付け廃止) すみだリサイクルの会補助金交付要綱(平成31年4月1日付け廃止)		
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託 人員体制・委託先 すみだリサイクルの会
事業内容	家庭で不要になった衣類や雑貨を代理販売するとともに、不用品情報を提供するリサイクル情報交換など、リサイクルの情報拠点を担っていた。		
経過	開始年度	平成8年度	終了予定 平成30年度
	開設以来、本施設の運営管理を行ってきた「すみだリサイクルの会」が、会員数の減少と高齢化を理由に、平成30年度末で解散することとなった。 現在の社会情勢においては、本施設の開設時に比べ、民間における中古品流通の仕組みが確立しており、開設目的について民間の機能による代替が十分可能であり、行政が施策として実施する必要性が薄れていた。 そのため、本施設の機能は、当初の目的を達成していることから、閉館することとした。		
議会質問 の状況			
その他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等)		

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）		4,818	6,028	4,738	3,121	2,771	
決算額（令和元年度は見込み）		4,691	5,757	4,442	2,474	1,114	
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		4,691	5,757	4,442	2,474	1,114	0
執行率（％）		97.4%	95.5%	93.8%	79.3%	40.2%	#DIV/0!

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	光熱水費	425	需用費	光熱水費	319			
役務費	清掃委託	163	役務費	清掃委託	109			
委託料	機械警備委託	257	委託料	機械警備委託	257			
使用料及び賃借料	パソコンリース料	431	使用料及び賃借料	パソコンリース料	431			
負担金補助及び交付金	運営費助成金	1,200						

事業の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	リユースショップ来館者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		16,000	H30	目標	16,000	16,000	16,000	
				実績	14,277	14,414	9,445	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標							
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	来館者数を指標とすることにより、区民のごみ減量及び3Rに対する意識を把握することができる。目標値については、日平均65人を基準として閉館日数(約250日)を掛けて算定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	売り上げ点数				単位	点
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
21,000		H30	目標	21,000	21,000	21,000		
			実績	20,894	22,944	19,934		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
リユースの実践として把握ができる								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
廃止を検討	<p>【評価説明】 「リサイクル」よりも優先度の高い「2R」をPRし、また実践できる場であり、総じて費用対効果は高い事業であるといえる。</p> <p>【今後の方向性等】 本施設の管理運営をする「すみだリサイクルの会」が会員数の減少等により、平成30年度をもって解散となるため閉館とする。</p>

課題・問題点
<p>閉鎖後の施設の有効な活用方法について、清掃移管施設の今後の在り方と併せて検討を行っていく必要がある。</p>

補助金名称	すみだリサイクルの会補助金			主管課・係（担当）
根拠法令	すみだリサイクルの会補助金交付要綱（平成31年4月1日付け廃止）			すみだ清掃事務所・啓発指導係
補助概要	「すみだリサイクル活動センター運営に関する覚書」において、墨田区が業務分担として担うべきとされた事項に係る費用			3613 2229
目的	すみだリサイクルの会に対し、その運営経費の一部を補助することにより、リサイクルの会の活動を支援・育成し、もって「リサイクル都市すみだ」づくりに寄与することを目的とする。			
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品再流通事業に係る出品者の登録に要する費用 ・リサイクルに係る情報の収集及び提供に要する費用 ・リサイクル思想の普及・啓発に要する費用 ・リサイクル関係の人材情報の収集及び提供に要する費用 			
基準	区独自基準			
補助条件	<p>補助金交付申請書には、事業計画書及び収支予算書を添付すること。</p> <p>また、会計年度が終了したときは、速やかに事業実績報告書及び収支決算書を区長に提出し、補助金について余剰金が生じたときは、速やかに区長に返還しなければならない。</p>			
経過	開始年度	平成8年度	終了予定	平成30年度
	<p>開設以来、本施設の運営管理を行ってきた「すみだリサイクルの会」が、会員数の減少と高齢化を理由に、平成30年度末で解散することとなった。</p> <p>現在の社会情勢においては、本施設の開設時に比べ、民間における中古品流通の仕組みが確立しており、開設目的について民間の機能による代替が十分可能であり、行政が施策として実施する必要性が薄れていた。</p> <p>そのため、本施設の機能は、当初の目的を達成していることから、閉館することとした。</p>			
議会質問の状況				
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等）			

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額（事業費）		4,818	6,028	4,738	3,121	2,771	
決算額（31年度は見込み）		4,691	5,757	4,442	2,474	1,114	
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		4,691	5,757	4,442	2,474	1,114	0
執行率（％）		97.4%	95.5%	93.8%	79.3%	40.2%	#DIV/0!

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	リユースショップ来館者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		16,000	H30	目標	16,000	16,000	16,000	
				実績	14,277	14,414	9,445	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	来館者数を指標とすることにより、区民のごみ減量及び3Rに対する意識を把握することができる。目標値については、日平均65人を基準として開館日数(約250日)を掛けて算定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	売り上げ点数				単位	点
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	H31
		21,000	H30	目標	21,000	21,000	21,000	
				実績	20,894	22,944	19,934	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標						
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
リユースの実践として把握ができる								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
廃止を検討		【評価説明】 「リサイクル」よりも優先度の高い「2R」をPRし、また実践できる場であり、総じて費用対効果は高い事業であるといえる。 【今後の方向性等】 本施設の管理運営をする「すみだりサイクルの会」が会員数の減少等により、平成30年度をもって解散となるため閉館とする。						

課題・問題点	